

がん哲学外来「佐久ひとときカフェ」

～胃がんで胃を切られたらどうなるの～

佐久市立浅間総合病院 外科 池田 正視

胃癌と宣告され、手術で胃を切り一安心。しかし一番恐れていた胃癌は治ったが、以前のように食事が摂れず、体重もどんどん減ってしまい、仕事にも身が入らないなどということでお困りになられている方がいらっしゃると思います。

胃癌は胃カメラ、外科手術、抗がん剤治療の進歩により、完全に治られる方が多くなっております。本日は「胃がんで、胃を切られたらどうなるの？」というお話です。

21世紀の今日、胃の手術を小さな創で行う腹腔鏡手術やロボットを用いた近代的な手術が盛んに行われております。しかし、人生において重要な役割を担う食生活に大きく影響を及ぼす胃を切った後の食事の通りの作り直し方（再建）に関しては、130年位前にヨーロッパで開発された方法で21世紀の今もほとんどの病院が行っているという現実があります。

そのため胃切除後の障害は特に手術後長期の障害に関しては、何ら進歩はしておりません。胃切除後の様々な障害で悩まれておられる患者様に対して、われわれが開発した37問の質問に答えて頂くアンケート式のQOL評価票「ペガサス-37」を使用することで、その患者様に出現する個人個人の障害や問題点を明らかにし、悩める症状を消失させることを目指し治療することが可能となりました。また、胃切除後障害を未然に予防する「パウチ間置術」という「代わりの胃袋を作製する再建法」もありますのでご紹介いたしました。

祝 オープン！

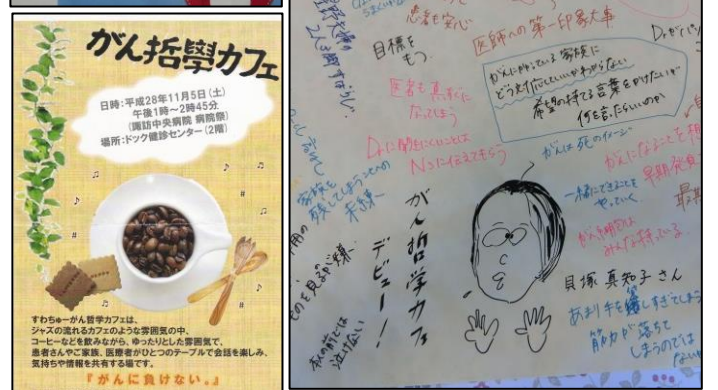
がん哲学カフェ@すわちゅー

佐久市 油井 早苗

秋晴れの紅葉も美しい11月5日土曜日、茅野市の諏訪中央病院で初めて開催される「がん哲学カフェ@すわちゅー」に佐久から星野さんご夫妻と一緒に参加して来ました。ちょっと緊張気味な貝塚先生のご挨拶の後は「笑いヨガ」で場を和ませて頂き、「ワールドカフェ」という手法でグループワークに入りました。

「ワールドカフェ」は少人数でテーブルを囲み20分位で一人を残して席を変わり、中央に置かれた模造紙にその時感じた事や思った事を自由に書き込み、最後に全体で情報や感想を共有するというやり方で、私にとっては初めての体験でした。いくつかのグループを渡り歩きながら、がんの人、ご家族、克服した人、がんになりたくない人、患者さんに寄り添いたいと思っている人…等々、短い時間ですが色々話を聞いたり、語る事も出来、新たな出会いに感謝する貴重なひとときでした。解散時の皆さんの笑顔も印象的でした。主治医にも家族、友人にも話せなかったことがここでは話が出る、お茶を飲みながら、耳を傾けてくれる人たちがいる、心が穏やかになれるそんなカフェが又新たに誕生した事は地域の方々にとってどんなに励みになる事でしょう。

「すわちゅーカフェ」が誰でも気軽に足を運べて、安心して皆が語れるカフェとして続いて行く事をお祈りしています。



信州がんセンター公開講座

10月27日午後6時～ 信州大学医学部付属病院

信州がんセンター公開講座
がん教育
～がん哲学外来からの学び～

参加費 無料
申込不要

本講座では学校教育における、がん教育の重要性について講演いただきます。

日時：平成28年10月27日(木) 18:00～19:00 (開場17:30)

場所：信州大学医学部附属病院 外来棟4階 大会議室

講師：専任大学医学部 榎野 興夫先生
教育関係者、医療従事者、市民の皆さまなど幅広い方々のご参加をお待ちしております。
※お申し込みの際は外来駐車場(有料)をご利用ください。

主催：信州がんセンター 共催：信州大学医学部がん予防推進推進プラン
お問い合わせ：信州大学医学部附属病院 医療支援課 医療連携係 TEL.0263-37-3391



がん哲学外来研修センター

長野県佐久市前山 321-3

mail : kenkokobo@hb.tp1.jp

(編集発行責任者：星野 昭江)

